

工学部だより

2013.3
No.18

「機能高分子・有機デバイス工学・
国際連携プログラム2012 in 台湾」
を実施しました。



平成24年11月30日 台湾大学NTU
(プログラムの詳細は、学科だより(p7機能
高分子工学科)に掲載しています。)

「留学生・日本人学生による
被災地(石巻)ボランティア」
を実施しました。



留学生と日本人学生がペアとなって移動



日本人学生と留学生の共同によるボランティア作業

平成24年12月22～23日 石巻市

留学生、日本人学生(山形大学と米沢女子短期大学の学生)、教職員が参加し、来るべく多文化共生時代に備え、異文化コミュニケーション能力や語学力を高めるとともに、ボランティア作業やボランティア養成講座に参加することで、自主的に行動できる力と公益力を身に付けることを目的としました。

目次

日々の心がけと努力 飯塚工学部長	2
ごあいさつ 上村後援会会長	3
学務委員会だより	4
工学部学生相談室より	4
特集 就職活動体験談	5
「文部科学省博士課程教育 リーディングプログラム」の採択について...	6
定着した「保護者懇談会」	6
学科(専攻)だより	7

平成23年度一般会計収支決算書及び 平成24年度一般会計収支予算書	12
平成24年度工学部後援会役員名簿	13
お知らせ	13
工学部の25年度年間予定表	13
平成24年度卒業・修了予定者の就職内定・ 進学予定先一覧	14
平成23年度卒業・修了者の就職状況	15
みんなで創る吾妻祭・サークル紹介	16



日々の心がけと努力

山形大学工学部長 飯塚 博

平成24年度は、東日本大震災からの復興の遅れ、経済活動や外交などに不安定な情勢が続き、社会全体に閉塞感を感じました。閉塞感がある企業に対して、東大の藤本隆宏先生は「『流れを作ること考えると良い』と助言することが多い」と講演で述べていました。流れを作ることとはどのような場面でも大切です。山形大学工学部の教育研究活動には流れができていのでしょうか。常にPlan-Do-Check-Actionサイクルを回すことが大切です。

今回は、教育改善について焦点をあててみます。

○ 工学部の挑戦 (Plan)

山形大学工学部は、今、有機エレクトロニクス分野の世界的な研究拠点の形成に努力しています。25年春には、米沢市オフィスアルカディアの地に「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」を開設します。また、25年秋にはその隣に蓄電デバイス開発研究センターが完成します。そして、既設の有機エレクトロニクス研究センターや理工学研究科(工学系)の各教育プログラムと連携し、グローバルリーダーの育成を目指したリーディング大学院を25年4月に開設します。私達は、世界最先端の研究開発の現場に学生を巻き込んで実践的な教育を展開して行く構想を進めています。

○ 教育の実践 (Do)

工学部の教育は、多くの分野でJABEE(技術者教育認定機構)の審査を受けた世界標準の教育カリキュラムを展開しています。最近の傾向としては、時代の流れとともに育成すべき人材像も変化しています。これまでは、良いものを安く大量に作るものづくりが行われてきました。そこでは、規則正しく、正確に、迅速に作業をこなす能力が求められていました。そのための教育としては、教員から学生への効率的な知識の伝達とその内容の正確な理解が重要でした。代わって、これからのものづくりでは、他には無い新しい価値を生み出す能力が求められます。そのためには、これまでの一方向的な教育ではなく、新しい価値を生み出すことのできる創造力と基礎力を育む教育が必要です。各教育プログラ

ムでは、創成科目や解の無い課題に取り組むカリキュラムを工夫して実施しています。その効果を見ながら、試行錯誤を繰り返しています。

○ 教育の評価 (Check)

平成24年度工学部運営諮問会議が11月に開催されました。諮問会議委員の皆様は、工学部の現状を報告して今後に向けたご意見を伺いました。24年度は教育に関わる機能強化について各教育プログラム長が発表し、議論しました。学生に常に「考えさせる」教育が大切、「主体的」に考えさせる教育がまだまだ表面的である、「俯瞰力」を付けさせる教育ができないか等々、貴重なご指摘を頂きました。また、保護者懇談会が工学部卒業生のホームカミングデーや米沢工業会支部総会の開催に合わせて企画され、保護者会の皆様からの声を伺うのもCheckの機会として重要です。是非、多くの保護者の皆様に、今後ともご参加頂けると幸いです。

○ 教育の改善 (Action)

時は流れ、社会が変化し、その変化した社会の中で育つ学生の気質も当然変化しています。「進歩は必ず代償を伴う」という言葉があるように、満たされた社会では知らず知らずのうちに忘れ去られてしまう大切な意識もあります。私達が展開している教育内容も時代とともに変化して行きます。改善の観点を忘れずに日々の教育に取り組むことが大切です。

時が流れても変わらない価値もあります。「人間はできるだけ早くから、良き師、良き友を持ち、良き書を読み、ひそかに自ら省み、自ら修めること」が大切だと先人が教えています。先日、「大学教育改革地域フォーラム2012 in 山形大学」がありました。その中である学生が「憧れるような先生と出会いたい」と言っていました。日々の心がけと努力、いつの時代にも変わらないものがあります。



ごあいさつ

山形大学工学部後援会会長 上村 勲 二

工学部後援会会員の皆様には日頃から会の活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年度に御説明しました3件について、その後の経過を御報告します。

東日本大震災で被災した学生(302名)への支援につきまして保護者懇談会でお願いしましたところ、多くの保護者の皆様から御協力を賜り、被災学生に予定の支援金を支給することができました。御協力に深く感謝申し上げます。また、学生達は震災ボランティアを、今年度も継続して7回にわたり七ヶ浜市で実施し、地域の方々から感謝の言葉をいただいております。

今年度、全国3ブロックに分けてから2回目となる保護者懇談会を下表のように実施しました。

地 域	開催日	開催地	参加者数
関東・甲信越地区	9/9(日)	熊谷市	38名
北海道・東北地区	10/6(土)	米沢市	約190名
中部・西部地区	11/11(日)	名古屋市	37名

参加者も増え、個別相談では不安や悩みを学科の先生方と相談され解消されたと喜んでおられました。懇談会でいただきました御要望はこれからも活かしていきますと共に、広報活動にも努めてまいります。

来年度も次の予定で計画しています。開催前に御案内申し上げますが、他会場の出席も結構ですので、御参加をお待ちしています。

地 域	開催予定日	開催予定地
関東・甲信越地区	9月13日(金)	東京都
北海道・東北地区	10月12日(土)	米沢市
中部・西部地区	11月10日(日)	名古屋市

今年度から、学生の就職活動が2カ月遅くなりました。懸念された内定率は92.7%(1月末現在)と昨年度よりも約1.5%上昇しており、胸をなでおろしているところです。今後も連携を密にして全員内定を目指したいと思います。

今年度の合同企業説明会は12月1日・2日に米沢市営体育館で実施しました。317社の企業に約700名(述べ1338名)の学生が会社説明を受け、受験体制に入りました。

今回は、後援会の事業について説明致します。

後援会の事業は、①学生の教育活動・課外活動・就職活動の助成、②学生と教職員の福利厚生助成の二つに規約で定められ、入学時に納入いただきました会費で運営しています。

具体的には、①学生の教育活動では、学部生への基盤教育助成と指導助成・院生への学会発表助成・学科行事助成・学位授与式助成(優秀学生副賞、学位記ホルダー、懇親会補助等)・地区保護者懇談会費等、②課外活動では、サークル活動助成・全国大会出場サークル助成・吾妻祭助成・吾妻杯野球大会助成等、③福利厚生では、国際連携サマープログラム助成・学生教務関係助成・定期健康診断助成・理容部運営助成・寮施設環境整備助成等を実施しています。

特別積立は、非常事態に対応するために積み立てており、東日本大震災被災学生支援に支出しました。

施設協力金は、国立大学の法人化以降大学への国庫補助金が減少されており、その施設設備の不足分を助成する目的で積み立てており、近年では百周年記念会館の建設及び外構工事に支出しました。百周年記念会館は学内外の研究発表会や会議で学生も多数活用しています。

詳細は、本誌12ページの一般会計決算書・予算書に記載しておりますので、御確認ください。

後援会の事業は国内がほとんどですが、海外留学支援を山形大学校友会が行っています。残念ながら工学部学生の参加が少ない現状です。TOEICの高得点者が対象となっていますが、これからのグローバル化を考えると、海外留学を是非体験して欲しいと願っています。

山形大学工学部は「有機ELなどを中心とする、世界に通じる最先端の研究」と「博士課程教育リーディングプログラムなど、日本一の教育」を目指しています。後援会はここで学ぶ学生達の諸活動を、大学と同窓会組織の米沢工業会と連携しながら有効的に助成することで、未来社会で活躍する学生達の基礎力の増進に寄与したいと考えています。

学務委員会だより

学務委員会委員長 佐藤 学
(大学院理工学研究科電気電子工学専攻教授)



学務委員会の担当は幅広く、学生の教育と生活に関わる領域となっております。先の東日本大震災では、幸いにも学生に犠牲者はいませんでした。約300名の工学部生のご家族が被災に遭われました。昨年度に引き続き、メンタルケアにも配慮した被災学生支援を行って参ります。

学生を社会に送り出すためには、社会人力の育成と基礎学力・専門知識を育ませることが大切で、層の広い学生に対してはキメの細かい対応が大切です。専門科目の礎となる数学・物理・英語の科目に対しては、基礎力が補強される授業がカリキュラムの中で開講されています。また、昨今の就職状況では企業から英語力へのニーズが高まっております。工学部ではすでに英語授業の少人数化など具体的な対応を実施しており、本委員会では、英語学習をサポートするホームページの立ち上げを進めています。内容は、英語学習の必要性、就職や会社生活との関係、卒業生からのメッセージ、初心者から上級

者へ向けた学内外の学習方法・教材の紹介、留学支援・学内イベント情報、各学科からの学習コーナーなどで、学生の積極的な活用を期待しています。保護者の方々が気にされる成績表の送付については、従来通りで年2回(9月と3月)に送付の予定です。不明な点がございましたら、工学部教育支援担当までお問い合わせください。

一方、交通事故や窃盗ならびに試験での不正行為などは、軽い動機であっても、本人の将来に予想を超えた不利益をもたらします。また、心身ともに健康で有意義な学生生活を送るためには、学生自身の健康管理や友達作りも大切です。保護者の方々におかれましては、帰省の際はもちろんですが、日頃、学業や生活そして将来などの様々な話題について話し合う機会を作って頂ければと思います。

本学の卒業生が、健康で明るく元気に社会で活躍できることを目標に、教職員一丸となって学生をサポートして参りますので、今後とも保護者の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

工学部学生相談室より

臨床心理士・准教授 高橋 国法

はじめに工学部後援会の皆様には学生相談室の活動を支援して頂き、心より御礼申し上げます。

工学部学生相談室では常に二人のカウンセラー(臨床心理士)が対応している。年度毎に利用数の集計を行っているが、平成23年度は学生や教職員、ご家族等々を併せ実人数で465名、延べ人数で2,314名に関与した。利用学生は例年、実人数で140名前後である。平成23年度は東北地方太平洋沖地震の影響があったため、学生の実人数は262名に上った。平成24年度は昨年度と比べ減少しているが、12月現在で例年並みか例年と比べやや増加傾向といったところである。相談内容は友人関係や将来への不安、研究室への不適応、あるいは不登校の問題等多岐に渡っている。

さて、ここからは少しカウンセラーの雑感を述べたい。相談活動では常に矛盾を孕んでいるように感じる。悩みは無いに越したことはないが、悩みが人を成長させることも事実だ。例えば、留年せざるを得なかったからこそ自分と向き合うことで自己理解が進み、自分の進路がはっきり分かり、留年したことに大

いに意義を見出す場合もある。

大学では楽しいことばかりではなく、辛く感じることも少なくない。未知の世界の研究はもとより、友人や先生との関係、学外者との関り、就職活動を含めた進路決定の問題、体調や時間を含めた自己管理等、常にプラスの良い刺激になるとは限らない。そのようなストレスはできれば体験したくないが、それが人を鍛え上げるのである。

相談室には、そのようなストレスに押しつぶされてから来室する学生は少なくない。ストレス体験が成長や成熟の機会にはならず、失敗体験、自己否定の機会となってしまうのである。大学生活を送るにあたり、学生の皆様には、辛い嫌な体験が自分を成長させる機会になると知って欲しいと願い、ご家族の皆様には、学生生活にはこのような危険が潜んでいることを知って欲しいと願う。



特集 就職活動体験談

昨年度は大震災の影響による厳しい就職戦線を勝ち抜いた2名の先輩に寄稿いただきました。今年度も相変わらず景気低迷の中、厳しかった戦線を見事クリアした学部学生と大学院生から寄稿していただきました。後輩の皆さんの参考に願えれば幸いです。

工学部物質化学工学科4年 新井 瞳

例年より2カ月遅い12月に広報活動が解禁となった2013年卒の就職活動。2カ月後ろ倒しとなった影響は何かあるのかと不安を感じながら就職活動のスタートを切りました。

就職活動を終え感じたことは準備不足であった面が多々あったな、ということでした。就職活動をするうえで避けて通ることができないのがエントリーシート、履歴書の作成です。セミナー等でも自己分析が大切だと度々言われてきましたが、どうにかなるだろうと私は余り手を付けませんでした。しかし、いざ書こうとするとこれが書けないのです。困難であったこと、頑張ったこと、自己PR…。直前で焦らないためにも、きちんと自分のことを振り返り一度整理してみることが大切なのではないかと思います。また、就職サイト以外に目を向けてみることも必要だと感じています。就職活動を始めた直後は、

どうしても大手就職サイトに目が行きがちなのではないかと思います。就職サイトに掲載をしていないような企業の情報を利用するために学校求人、就職担当の先生などを上手に利用することをオススメします。私が内定を頂いた企業も、就職サイトを通じてではなく自分で企業のHPを見つけ説明会予約をしました。筆記テスト、2回の面接を経て説明会参加から約1カ月で内定を頂くことができました。私は8月に内定を頂くまでたくさん悩んで、時には投げ出したくなる時もありました。自分のやりたいことが分からない、何ができるか分からないという人も居ると思います。しかし、人生においてここまで自分と向き合い、将来のことを考える機会というものはないのではないかと思います。どうかみなさん最後まで諦めず、自分を信じて頑張ってください。

大学院理工学研究科博士前期課程 情報科学専攻2年 山口 好

私の就職活動は、例年に比べて2ヶ月先送りされたスケジュールで始まった。スタートが遅いことで多少の焦りがあった。さらに、今まで経験した受験と大きく違う点が気になっていた。受験ではテストの点数が高ければ優位になるが、就職活動では一概にそうとは言えない。私たちが企業を選ぶように、採用を最終的に決定する企業は様々な基準に基づいて私たちを選ぶのだ。この違いに大きな不安を持ったまま私の就職活動がスタートした。

就職活動として、まずノートをつくり企業研究を行い、行きたい企業を絞っていった。12月から公式の就職活動が解禁され、説明会にいくつか足を運んだ。そこで感じたのが、ノートをまとめるだけではわからないことが数多くあるということだった。私が今だから思う「就職活動に影響した要素」というのは、採用担当の人との意思疎通がいかにできたかという点だった。その人が企業の顔だと考えたからこそ、採用担当の人とのコミュニケーションについ

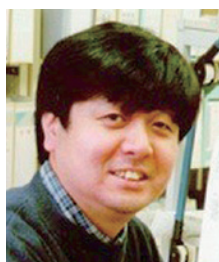
て注意し、その人を通して企業を観察した。十人十色という言葉があるが、まさに企業も人もその通りである。自分にあった色の企業が自分を採ってくれる、それが就職活動だと思う。最終的に選ぶのは企業だからと言って、いくら上手に自分を違う色で塗り替えていってもほころびが出てしまうものだ。最後には自分の色に合う企業が自分を選んでくれる、と考えて、自分の価値観や大事に思っていることが正しく伝わるようにした方がよい結果につながるかもしれない。

この文章を、就職活動中の人が読んでくれて、面白いなと思ったら少しでも心が軽くなったりしてくれたら幸いです。就職活動は休みを入れながら取り組んでみてください。

祝
採択

「文部科学省博士課程教育 リーディングプログラム」の採択について

副学部長（教育担当） 神戸 士郎



山形大学大学院理工学研究科（工学系）では、5年一貫の博士課程である文部科学省博士課程教育リーディングプログラムに応募しました。領域を絞った「オンリーワン型」には全国から38

件の応募があり、山形大はこれまでの工学教育と研究の実績が高く評価され、千葉大・東大など他4大学とともに採択されました。

リーディングプログラムは、国内外の優秀な教員と学生を結集し、産業界からも運営に参画を得つつ、専門分野の枠を超えた、俯瞰力と独創力を備えた世界に通用するグローバルリーダーを育成する大学院コースで、本学では「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院（略称：フレックス大学院）」と称します。

プログラム最大の特長は、5年一貫の博士課程教育であることです。有機エレクトロニクス研究セン

ターなどの世界的研究拠点を利用しつつ、主専攻と副専攻の2つの専攻に属し、「フロンティア有機材料システム」という新しい学問分野を創成する人材を育てます。また、企業や海外実習などの価値創成キャリアデザイン科目を通じ、グローバルリーダーを育てます。さらに、担任やメンター制によるきめ細かい教育、生活、進路指導、奨励金と専用寮によって安心して学べる環境を提供します。

すでに、2013年4月の開講を目ざして、プロジェクト教員の募集、1号館の改修、専用寮の確保などの準備が着々と進められています。

山形大学大学院理工学研究科前期課程に進学するすべての専攻の学生がフレックス大学院コースを受験でき、1学年定員は12名です。大学院博士後期課程まで進学希望の方は、是非フレックス大学院コースの受験を検討ください。詳しくは、「<http://ifront.yz.yamagata-u.ac.jp/index.html>」を参照してください。

定着した「保護者懇談会」

後援会副会長 長谷部 利 信

保護者の皆様におかれましてはご健勝の事とお慶び申し上げます。今年度も予定通り、関東・甲信越地区は熊谷市、北海道・東北地区は地元の米沢市、中部・西部地区は名古屋市に於いてそれぞれ開催いたしました。保護者の方にはご入学時に大学から講義のやり方、単位の取り方、成績の見方、生活の仕方等の説明がありました。

一年後、山形から米沢に移ってからの生活・勉強がどうなっているかなかなかお分かりにならないのではと思います。そのため当工学部は保護者懇談会を毎年開催し、工学部全体の概況、活動報告の他、学科毎に分かれて説明・質疑応答と個別相談も行っています。

参加された保護者の方は子供さんの大学での

生活態度・成績を直接先生から聞くことが出来、就職・進路にも気軽に相談に乗ってもらえます。お陰さまで毎年、大へん好評であり、定着した恒例の事業となっております。大学からの一方的な発信だけでなく保護者の御要望・御意見をも保護者懇談会を通じて大学に反映し、保護者はもちろん、学生もより実のある大学生活を送ってほしいと願っています。新年度も3地区で保護者懇談会を開催します。ご期待を！



H24.9.9 関東・甲信越（熊谷会場）



H24.10.6 北海道・東北地区（工学部会場）



H24.11.11 中部・西部地区（名古屋会場）

学科(専攻)だより

機能高分子工学科

教育プログラム長 教授 森 秀 晴

機能高分子工学科では、時代が求める創造性と起業家精神をあわせ持った、高分子材料に関するスペシャリストを育成することを目的としております。特に、高分子の基礎科学から製品レベルでの実用化までの一貫した教育・研究を通して、確かな専門基礎学力に立脚した独創的かつ実践的な専門技術者、研究者の育成を目指しています。

近年、グローバル化に対応した人材育成の必要性が求められておりますが、それに対応した専攻の取り組みを2つ紹介します。一つ目の取り組みとして、平成24年11月29日～12月6日の一週間に渡り「機能高分子・有機デバイス工学・国際連携プログラム2012 in 台湾」を実施しました。このプログラムでは、機能高分子・有機デバイス工学関連分野の修士課程学生6名、博士課程学生6名、教員3名、職員1名が参加し、台湾の5大学を訪問しました。初日には、昨年2月に学部間

学生交流協定を締結した国立台湾大学工学部を訪問し、双方の学生による学術交流会を開催致しました。さらに、中央大学、交通大学、清華大学、中原大学(薄膜開発センター)にも訪れ、学生交流を図りました。このプログラムの目的は、修士・博士課程の学生の英語力の底上げ&海外経験の機会を与え、事前教育+現地実践による効果的な英語教育を実施し、更に国際交流事業及び組織的な国際交流を強化することによってグローバル化に対応した人材を育成することです。二つ目の取り組みとして、修士学位論文公聴会に英語口頭発表部門とBest English Presentation Award を設け、英語で修論発表する機会を作りました。このような取り組みを通じて、グローバル化に対応した人材育成を実施していきたいと思っております。

今後とも後援会の皆様方の暖かいご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

今後とも後援会の皆様方の暖かいご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



12月3日am 中原大学 CYU 薄膜開発中心



12月4日am 交通大学NCTU



12月4日pm 清華大学NTHU

物質化学工学科

教育プログラム長 教授 仁 科 辰 夫

米沢も雪が降り積もり、卒業の季節が近くなったことを否応なしに突き付けてくれます。学生諸君も卒業論文・修士論文の完成に向けて、忙しい日々を送っています。本年度もあと3か月で終わりますが、学生諸君の奮闘努力のおかげで、本学科・専攻の以下の教員が学会賞などを受賞することができました。これは、決して教員個人の能力が優れているからだけではなく、学生諸君が無事に成長しているからであります。そのエビデンスとしてのデータを現時点で集約できていないことをお詫び致しますが、当研究室所属の学部4年生である上岡孝弘君は、平成24

年度化学系学協会東北大会(H24年9月)においてポスター賞を受賞していますし、博士前期課程1年の本田千秋さんは表面技術協会・金属のアノード酸化皮膜の機能化部会主催の第29回ARS伊豆長岡コンファレンス(H24年11月)にてポスター賞を受賞しています。これは当研究室が特別なわけではなく、他の研究室も同様でしょうから、学生諸君の成長の証拠として十分なものです。

彼らの成長に深く感謝したい。そして、日本の未来を託す人材として、胸を張って卒業してくれることでしょう。ありがとう。

桑名一徳 准教授	日本火災学会 内田奨励賞 受賞 「火災現象の熱流体力学的解析とその 火災旋風現象解明への応用」 平成23年5月	
	高温学会論文賞 「マイクロ拡散火災の消炎限界」 平成23年5月	
落合文吾 准教授	文部科学大臣表彰、若手科学者賞 受賞 平成24年4月	

鶴沼英郎 教授	第67回(平成24年度)日本セラミックス 協会賞・学術賞 受賞 「水溶液を反応場としたセラミックス の形態制御合成と応用の研究」	
立花和宏 准教授	平成24年度山形大学永年勤続表彰 平成24年11月29日	

バイオ化学工学科

少子・高齢化が急速に進む中、工学部の使命の一つとして健康で安心して生活できる社会づくりに不可欠な技術の開発があります。特に、医療や環境など社会的ニーズの高い分野への先端工学技術の導入は加速の一途を辿っています。例えば、医療を支える診断技術や医薬品の開発には、病気のメカニズムを理解するための生命科学の知識と薬を合成するための化学の知識の融合など、これまでの化学系学科ではカバーしきれない部分を補う教育カリキュラムが必要です。バイオ化学工学科は、この新しい教育カリキュラムを実践し、社会的ニーズの高い産業分野で活躍できる人材育成を目的とした学科として平成22年4月に新設されました。

バイオ化学工学科では、第一期生として女子32名、男子30名が入学し、工学部の長い歴史の中で初めて女子が半数以上を占める学科となり、さらに第二期生では6割近くが女子です。また、農学部や薬学部など工学部以外の学部の受験を考えていた学生の入学が多いことも本学科の特徴です。本学科で



3年前期の生物・バイオ実験風景

教育プログラム長 教授 阿部 宏之



は、1年次から化学と生物学を総合的に学び、2年次からは専門教育として化学工学、無機・有機化学、生物科学の幅広い分野の講義と実習を行い、化学と生命科学に関する高度な専門知識を身につけます。今年度、第一期生は後期（6学期）から各研究室へ仮配属されました。これは、先端の研究を通して実践的な研究手法を学ぶことで、科学技術が社会に及ぼす影響について論理的に洞察し、みずから適切に判断できる能力を備えた専門技術者・研究者の養成を目的とした教育プログラムの一環です。また、化学・バイオ系の企業で活躍している講師を招聘し、学生の進路決定をサポートする特別講義を実施しています。

本学科は、医療、環境、分析化学、エネルギー分野の先端研究を行っている教員が多数そろっており、研究のレベル及び設備の面で東日本における有力な工学部バイオ系学科であると自負しております。現在、本学科の教職員は、第一期生の就職及び進学に向けて万全の体制づくりに一丸となって取り組んでおります。新学科の発展のために、保護者及び後援会の皆様方の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

応用生命システム工学科

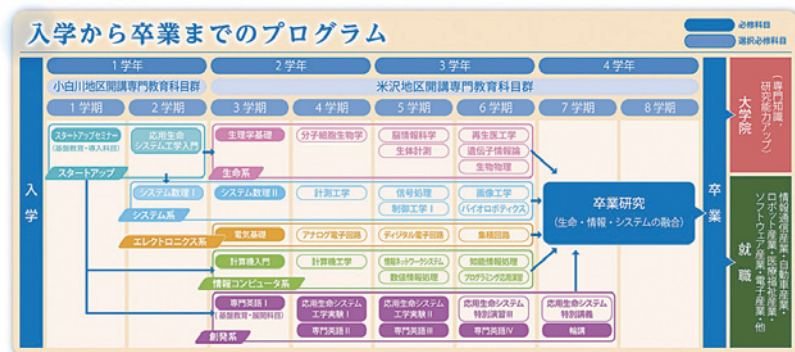
応用生命システム工学科は、人間の生命活動をシステムとして捉えて、その仕組みや機能を学び、システムの総合的理解と新しいシステムの構築を行っています。そのため、本学科の学生は、特定の学問体系にとらわれず、来年度から新規に開講する再生医工学などの医療系学問、電気・電子回路や制御工学などの電気系学問、プログラミングや画像処理工学などの情報系学問を複合的に幅広く学んでおり、企業が必要とする広い知識が融合できる人材を輩出することに、学科教職員は一丸となって取り組んでいます。毎年、本学科の50%以上の学生は、深い専門知識の習得と技術者・研究者としての能力向上を目

教育プログラム長 教授 山本 修



指して大学院に進学し、先端研究や技術開発の次世代の担い手になるべく、研究活動に没頭しています。特に、本年度の大学院進学志願者は70%を超し、研究志向が進んでいます。就職状況については、電気・機械などの製造業からサービス業まで様々な業種となっています。本年度からは、素材企業からの募集も増えております。

本学科では、机上の教育だけでなく、学生諸君が実社会で生き抜く力を養うためのプログラム、心のケアや教員のサポート体制の充実を図っています。先行き不透明な経済状況であっても、企業は学力・強い心をもつ優れた人材を採用するものと信じています。本学科の教職員は実社会で生き抜く人材を送り出すことに力を注いでおりますので、保護者及び後援会の皆様におかれましては、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



情報科学科

情報科学科では、情報化社会の中心を担う技術者育成を目的に、教育内容・方法の改善に継続的に取り組んでいます。

2012年度の目玉の改善は3年生の「計算機工学演習」という科目です。組み込み向けの集積回路基板を1人1枚ずつ1学期間手元に置いて、各自のアイデアを実現するコンピュータを作る課題に取り組んでもらっています。情報の流れやプログラムの動作は外から見えません。講義や限られた時間の実験では概念的な理解にとどまってしまう。しかし、自分の手を動かして、目の前のハードウェアに触れ、その動きを確認していくと、手で物を扱うのと同様に、プログラ



オープンキャンパスでの研究内容紹介の様子

ムや操作で情報を手に取るように扱える情報の専門家が養成できるものと期待しています。

しばしば報道されるように、

教育プログラム長 教授 平 中 幸 雄

情報システムの事故が各方面で多発しています。原因は様々ですが、背景として、システムが複雑になり、技術者がシステム全体を把握しづらくなってきていることが大きいと思います。事故後に調べてみれば、なぜこ



んな当たり前のことが分かっていなかったんだろう、と思われる事例がよくあります。システムと情報を直感的に把握できるセンスを持った技術者であれば、システムはどう作べきか、データが多くなるとどうなるか、処理が遅いと何が起きるか、ハード故障があるとうなるか、といった推察力も自然に発揮できるものと思います。そのような技術者が多く育ち、安心して頼れるシステムが社会のどこでも動いていることを期待しています。

もちろん、ひとつの科目だけで充分ということはありません。一番大事なのは、学生諸君の目的意識ですが、それが素直に伸ばせるよう、今後も工夫をしたいと思います。

電気電子工学科

当学科では在学中に4つの学習教育達成目標「基礎学力」、「専門知識と応用力」、「コミュニケーション力」、および「技術者倫理と複眼的思考力」を獲得できるように取り組んでいます。

コミュニケーション能力を高めるために、チームで仕事を進める課題解決型プロジェクトの科目を多く設定しています。4名一班編成で仲間と議論し、ぶつかり合いながら、グループ独自のものを作り上げて性能を競うものです。1年生では3週間でボール飛ばし装置、2年生のグループプロジェクトⅠでは15週間で発電機、3年生のグループプロジェクトⅡでは15週間でロボットを作成します。作成の過程でモノづくりの面白さを感じてもらっています。

職業感の醸成を図り、就きたい仕事を自分で決められるように、電気電子工学に関係する色々な分野で活躍している技術者の話を聴く機会も設定しています。1年生ではOBの技術者を招いて話を聴くだけでなく、夏休みに入ってすぐに山

教育プログラム長 教授 東 山 禎 夫

形県内の工場見学を行います。

2年生では発電機の設計技術者の話を左記プロジェクトの中で聴き、3年生では特別講義として約10名の技術者の話を聞いて、様々な業界の現状、企業における技術者の仕事について理解を深めています。この技術者の講義では聞く、質問する、書く能力の向上にも役立つようにしています。

学生諸君が自分で判断し、決断できる自立した技術者として育つための手助けをしていきますので、保護者の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。



3年生のグループプロジェクトⅡ

機械システム工学科

機械システム工学科では、「21世紀を担う優れた人材の育成」を目標としています。資源の乏しいわが国の発展のためには、新しい価値の創造や新分野の産業を開拓できる優秀な人材の育成が生命線といわれています。特に日本の産業界が新たな成長を遂げるために、専門知識・スキルに加え全体を見渡すことのできる大局観とコミュニケーション能力を有する技術者が必要とされています。

そこで本学科では、特にものづくりに関連する実践的・実学的教育および社会人基礎力としてのコミュニケーション能力の養成を学習・教育目標とし、「前向き」で「創造性豊かな」自立した技術者の養成をめざしています。JABEE（日本技術者教育認定機構）認定のきめ細かい教育体制のもとで、学生



3年生後期の「エンジニアリング創成」

は各自の具体的目標を立て、各学期毎に達成度評価を行いながら着実に学習を進めていきます。

教育プログラム長 教授 小沢田 正



学部の4年間は主に機械システム工学の基礎をしっかりと学んでいきます。約50%が進学する大学院博士前期課程の2年間では、研究の手法を深く学びその分野の最先端を体験し、ほとんどの学生が学会発表も行います。これは、学生にとって大きな自信となるだけでなく、企業からの評価も高く就職にもプラスになります。事情が許されるのであれば是非大学院へ進学されることをお勧めします。

就職内定率は2013年1月現在で、大学院は100%、学部はAコース94%、Bコース89%と高い就職率を達成しております。優れた人材を求める企業側の志向に変化はありませんので、今後も学科と産業界、OBとの連携を密にし、就職力の強化・サポート体制に万全を期して参ります。本学科の使命は教育・研究を通じた優れた人材の育成にあると教職員一同受止めており、今後も一丸となって取組む所存ですので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

システム創成工学科

平成22年4月に新設されたシステム創成工学科も、平成25年度新入生を迎えると1年生から4年生までのフルキャストの学科となります。第1期生の多くは、すでに研究室に仮配属され、工学部各学科の昼間コースの学生に混じって研究室での生活もスタートさせています。この1年間で大きく成長していくものと期待しています。

システム創成工学科の学生の中には、空き時間に学科事務室に集まって談笑することを楽しみにしている人が多くいます。これまでは、アルバイトが忙しくて朝起きられない、〇〇ちゃんに彼氏ができたみたい、といった日常の何でもない話が主でしたが、最近では、どの会社に就職しようか、大学院に行った方が良いのかな、といった自分達の将来を考えた話題が増え、システム創成工学科もいよいよ一人前の学科になってきた、と感じております。また、昼間コースの各学科から、システム創成工学科の学生に関する話が聞こえてくる機会も増え、工学部内にシステム創成工学科がしっかり根付いていることが

教育プログラム長 教授 近藤 康雄



伺えます。あとは、第1期生が順調に進学先または就職先を決め、1年後に新たな第1歩を踏み出していってくれば、というところです。

非常に不安定な時代に立ち上げた学科であるにも関わらず、これまで順調に学科を運営できたのは、学生諸君の頑張りはもちろんのこと、保護者や後援会の皆様のご支援とご理解があったからだと心から感謝しております。第1期生を無事卒業させ、それに続く多くの後輩達を立派な社会人に育てていくことが我々教職員の直近の課題です。今後とも、ご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

有機デバイス工学専攻

本専攻はこの春で7年目を迎えます。本専攻は、日本で初めて有機デバイス工学に特化した専攻として、世界中から注目されております。一昨年には、新たな研究施設「有機エレクトロニクス研究センター(10号館)」が完成しており、世界最先端の研究、教育環境が整いました。平成24年度は、大学院博士前期の学生定員25名を大きく上回る49名の学生が博士前期課程に入学しました。

有機デバイス工学は「有機エレクトロニクス」と呼ばれる有機分子やポリマー材料を用いてフラットパネルディスプレイ、半導体、照明材料、電池など様々な電子デバイスを創製する学問分野であり、省エネルギー・環境対応型、低炭素化技術としても大いに期待されています。さらに、山形大学の先端的研究拠点として「有機エレクトロニクスに関する世界的な研究拠点を整備する」という全学あげた取り組みの中で、本専攻が果たす役割は益々大きくなっていきます。これらの有機エレクトロニクス(有機EL、

専攻長 教授 伊藤 浩 志

有機半導体、有機太陽電池など)研究を推進するべく、本専攻の中核をなす城戸淳二卓越研究教授、時任静士卓越研究教授らの研究室では、高輝度有機EL照明やフレキシブル有機デバイスの研究に注力されております。

また、平成25年4月には、有機エレクトロニクスイノベーションセンターが完成予定です。民間企業出身者を中心とした「スーパーイノベーターチーム」が集結し、先端技術の実証、応用への橋渡しを行うセンターとして活動していく予定です。

本専攻で学ぶ学生たちのモチベーションも高く、精力的に勉学に励んでいます。このように本専攻では最先端の研究開発を通して、旺盛な好奇心を持ち意欲ある学生の育成を行っております。今後とも皆様方の暖かいご支援を宜しくお願い申し上げます。



ものづくり技術経営学専攻

2013年は、2012年までの閉塞感を打ち破るべく、「変わる」「変える」ことが、「日本の元気」を新しく作っていく年になります。日本の人口減少はすでに仮定条件ではなく現実減少であり、この条件を基本にして何を目標に、何を手段に実行していくかが問われています。もちろん、2011年3月11日の東日本大震災、10月のタイ大洪水といった天災、人災の要因も想定内にしたリスクマネジメントも必要です。

例えば、2011年までの戦略でグローバル展開したサプライチェーンは、東日本大震災とタイ大洪水で、世界各国の製造業で戦略の見直しを余儀なくされました。リスクを想定内にした戦略ができていなかったことを露呈したわけです。また、最終消費者がグローバル化し、エンドユーザーの文化を意識した商品考えたマーケットが主戦場になる状況では、技術力を持った部品企業・材料企業は、その顧客を日本の企業だけでなく、欧米、韓国、中国の企業にシフトして生き残ること、あるいは発展をしていく技術マネジメント戦略が必要です。さらには、ラテンアメリカ、アフリカを意識することも重要になってきます。

外部資金で運営していた3つのコース、「食品創製コース」「アジア人財コース」「グローバル戦略コース」はそれぞれ終了しました。これらのコースでは、種々の成果が見られ、その発展的なカリキュラムを新たに設計しました。2013年度は、これらのコース

専攻長 教授 児玉 直 樹

にあった科目を再編してカリキュラムを見直し、日本人学生のための「価値創成コース」(修了要件30単位)と、留学生のための「とうほくMITRAI(みらい)コース」(修了要件40単位)に再編成しました。それに伴い、科目改廃による指導内容の見直し、2012年度から始めたBBT(ビジネスブレークスルー)大学院大学との連携、荒川区との連携をさらに強めていきます。10月からは、ボリビアの国費留学生が毎年4名、5年間継続(合計20名)のプログラムが始まります。日本にとって有益な「Liの技術マネジメント」を学ぶことが目的です。

狭い意味の「ものづくり」から、本来のMOT(価値創造と価値獲得のために技術をマネージすること、グローバルテクノロジーマネジメント戦略)をさらに深めていきます。皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



平成23年度 一般会計収支決算書 及び 平成24年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	平成23年度			平成24年度 予算額	摘 要
	予算額	収入済額	増減		
会 費	21,703,500	19,786,000	△1,917,500	21,534,500	[会費内訳] 昼間コース @26,000円×603人 フレックスコース @26,000円×50人 3年次編入学 @13,000円×13人 博士前期課程 @13,000円×300人 博士後期課程 @19,500円×25人
雑 収 入	2,000	2,101	101	2,000	預金利息
繰 越 金	1,022,648	1,022,648	0	706,678	
合 計	22,728,148	20,810,749	△1,917,399	22,243,178	

支出の部

項 目	平成23年度			平成24年度 予算額	摘 要
	予算額	支出済額	残 額		
1 学科厚生補導費	1,269,000	1,269,000	0	1,255,300	
学部学生指導補助費	581,600	581,600	0	572,800	入学現員で各学科に配分
学科行事等補助費	687,400	687,400	0	682,500	入学現員で各学科に配分
2 一般厚生補導費	2,509,525	2,383,590	125,935	2,654,500	
国際交流関係補助費	250,000	162,539	87,461	400,000	国際連携サマープログラム等への補助
学務関係補助費	750,000	866,093	△ 116,093	800,000	学生・教務関係補助
保健管理関係補助費	150,000	48,541	101,459	100,000	定期健康診断等補助
理容部運営補助費	450,000	396,892	53,108	450,000	国有財産使用料、光熱水料
教養教育事業後援費	909,525	909,525	0	904,500	昼間コース1年生@1,500円×603人
3 進路対策補助費	100,000	16,038	83,962	100,000	就職ガイダンス、書籍購入費補助
4 学生研究助成費	1,000,000	775,000	225,000	1,000,000	学会発表補助 @5,000円×200人
5 課外活動補助費	450,000	478,835	△ 28,835	500,000	サークル活動への補助
6 一般体育設備等補助費	500,000	323,225	176,775	500,000	体育用具等
7 厚生施設等環境整備補助費	600,000	216,405	383,595	600,000	学内環境整備補助
8 研修行事等関係補助費	150,000	140,000	10,000	150,000	技術職員研修
9 学部渉外関係補助費	1,250,000	1,091,870	158,130	1,250,000	会議等補助
10 大学行事補助費	1,800,000	2,286,306	△ 486,306	2,000,000	学位記授与式・祝賀会、科学フェスティバル、クラシックコンサート等補助
11 運 営 費	3,200,315	3,013,802	186,513	3,280,315	
会 報 費	550,000	465,802	84,198	550,000	「工学部だより」発行
会 議 費	250,000	277,052	△ 27,052	300,000	理事会、会長・副会長会議
通 信 費	50,000	19,880	30,120	50,000	会員へのお知らせ発送
事 務 費	1,100,000	1,137,862	△ 37,862	1,100,000	事務局職員の給与、事務用品
旅 費	120,000	116,270	3,730	150,000	他大学視察
地区別説明会費	1,000,000	871,621	128,379	1,000,000	各地区保護者懇談会
学園都市推進協議会費	100,315	100,315	0	100,315	負担金
雑 費	30,000	25,000	5,000	30,000	
12 積 立 金	1,500,000	500,000	1,000,000	500,000	
13 施 設 協 力 金	8,347,500	7,610,000	737,500	8,282,500	定期預金へ
14 予 備 費	51,808	0	51,808	170,563	
合 計	22,728,148	20,104,071	2,624,077	22,243,178	

平成24年度 工学部後援会役員名簿

役 職	氏 名	等	所 属
会 長	学 外	上 村 勘 二	
副会長	学 外	長谷部 利 信	
	大 学 院 1 年	伊 藤 甚 一	電気電子工学専攻
	B 4 年	渡 部 克	物質化学工学科
	教 授	佐 藤 学	学務委員会委員長（電気電子工学分野） 同 副委員長（機械システム工学分野）
理 事	大 学 院 2 年	竹 田 浩 一	情報科学専攻
	大 学 院 1 年	中 川 聡	有機デバイス工学専攻
	A 4 年	石 附 義 和	機能高分子工学科
	A 4 年	清 野 清 幸	機械システム工学科
	昼 間 3 年	楠 田 仁	機械システム工学科
	昼 間 3 年	鈴 木 さだ子	機械システム工学科
	昼 間 2 年	佐 藤 武 雄	情報科学科
	昼 間 2 年	安 原 和 子	情報科学科
	昼 間 1 年	山 口 弘 巳	物質化学工学科
	昼 間 1 年	鈴 木 隆 宣	バイオ化学工学科
	B 4 年	佐 藤 景 一	物質化学工学科
	フレックス 2 年	小 川 隆	システム創成工学科
	フレックス 1 年	渡 部 健 二	システム創成工学科
	学 外	結 城 經 治	(社)米沢工業会理事長
	学 外	山 崎 洋一郎	(社)米沢工業会常務理事
監 査	A 4 年	加 藤 浩 樹	電気電子工学科
	フレックス 3 年	佐 藤 孝 則	システム創成工学科
	教 授	神 戸 士 郎	前学務委員会委員長（物質化学工学分野）
幹 事	事 務 部 長	小 関 俊 宏	
	学 務 課 長	綿 貫 藤 雄	
	上 席 係 長	片 山 政 弘	
	上 席 係 長	更 科 一 裕	
顧 問	工 学 部 長	飯 塚 博	
	前 会 長	山 森 茂一郎	

お 知 ら せ

◎学位記授与式・祝賀会のご案内

日 時：平成25年3月20日(水) 午前10時から
 式典会場：米沢市営体育館 米沢市金池3-1-62
 祝賀会会場：東京第一ホテル米沢 米沢市中央1-13-3

◎入学式のご案内

日 時：平成25年4月5日(金) 午前10時30分から
 式典会場：山形県体育館
 山形市霞城町1-2 霞城公園内

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当（☎0238-26-3017）

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、
 休・退学、留学、学生寮、サークル活動、
 健康相談、こころの悩み

学務課教育支援担当（☎0238-26-3015）

→教務（授業・履修・成績）、教員免許、
 諸証明書の発行、転学部・転学科、
 科目等履修生、T A

学務課入試担当（☎0238-26-3013）

→各種（学部・大学院）入学試験、編入学試験

工学部の25年度年間予定表

前 期(平成25年4月1日～9月30日)

春季休業：4/1(月)～4/5(金)
 入学式：4/5(金)
 授業期間：4/10(水)～7/24(水)
 定期試験：7/25(木)～8/5(月)
 補講期間：8/6(火)～8/12(月)
 夏季休業：8/13(火)～9/30(月)

後 期(平成25年10月1日～平成26年3月31日)

授業期間：10/1(火)～12/24(火)
 開学記念日：10/15(火)
 冬季休業：12/25(水)～1/10(金)
 授業期間：1/14(火)～2/3(月)
 定期試験：2/4(火)～2/13(木)
 補講期間：2/14(金)～2/20(木)
 春季休業：2/21(金)～3/31(月)
 学位記授与式：3/21(金)

平成24年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

1. 工学部

(1月末日現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
A コ ー ス	機能高分子 工学科	友新精機㈱、福島ゴム㈱、日本ブラスト㈱、青森オリンパス㈱、㈱カクイチ製作所、㈱ニフコ、㈱ファーストリテイリング、こころネット㈱、㈱小松製作所、㈱神戸屋、米沢放電工業㈱、越後天然ガス㈱、日新製薬㈱、田島ルーフィング㈱、伊藤電子工業㈱、オノヤ㈱、㈱トラストテック、リョーサン㈱、プラス・テック㈱、㈱東洋クオリティワン、㈱パーカーコーポレーション、㈱ジェイ・ティー・エス、日本化成㈱、青葉堂印刷㈱、高島食品工業㈱、東京地下鉄㈱、エンブラス㈱、㈱V S N、公務員(5)(自衛隊、長野県警、北茨城市役所、土岐市役所、川西町役場)、山形大学大学院(71)、東北大学大学院、東京工業大学大学院、研究生	
	物質化学 工学科	日本ビグメント㈱、㈱アイレックス、山九プラントテクノ㈱、エムシーファーティコム㈱、アイバックスイケタニ㈱、㈱産業分析センター(2)、㈱アドービジネスコンサルタント、㈱日立東日本ソリューションズ、東北クリーン開発㈱、山九㈱、森永乳業㈱、新興ブラントテック㈱、㈱光通信、久光製薬㈱、㈱エースジャパン、㈱環境技研、弘進ゴム㈱、三甲㈱(2)、日新製薬㈱(2)、ユシロ化学工業㈱、北陸ガス㈱、㈱メイコー、日本インテグリス㈱、菱機工業㈱、東北緑化環境保全㈱、藤田エンジニアリング㈱、三和缶詰㈱、㈱光陽社、河西工業㈱、ディー・ティー・ファインエレクトロニクス㈱、シーケーエンジニアリング㈱、㈱京浜工業所、㈱アサカ理研、㈱チノ、公益財団法人宮城厚生協会、㈱日東分析センター、㈱幸楽苑、三建設備工業㈱、レンゴー㈱、フジフーズ㈱、エンテックス㈱、伊藤ハム㈱、ジエールサイエンス㈱、八州電機㈱、㈱高木化学研究所、前橋育英高等学校、コニカミノルタホールディングス㈱マラッカ、㈱太平エンジニアリング、不二ラテックス㈱、㈱アステック、㈱木曾路、㈱佐竹製作所、S Kダイヤ㈱、㈱バイク王&カンパニー、公務員(2)(郡山市職員、東京消防庁)、山形大学大学院(50)、東京工業大学大学院	
	機械 システム 工学科	理研電線㈱、スズキ㈱、T H K㈱、朝日電装㈱、㈱朝日ラバー、㈱オーテック、亀田製菓㈱、日精㈱、関東精機㈱、アルパイン技研㈱、岩手缶詰㈱、ルービー工業㈱、キャノンシステムアンドサポート㈱、スタンレー電機㈱、㈱ソーゴ、高砂熱学工業㈱、太平エンジニアリング㈱、㈱ブレック、㈱シークス(2)、守谷輸送機工業㈱、セントラルエンジニアリング㈱、㈱加藤製作所、スカイビルサービス㈱、D O W Aホールディングス㈱、㈱栃木銀行、㈱本山製作所、トヨタ自動車㈱、㈱宇都宮製作所、アルパインプレジション㈱、日研総業㈱、トヨタテクニカルディベロップメント㈱、いすゞ自動車㈱、S M C㈱、東芝機械㈱、北芝電機㈱、裕幸計装㈱、凸版印刷㈱、東日本旅客鉄道㈱仙台支社、HIROSE ELECTRIC (M) DDN.BHD、TOYO-MEMORY TECHNOLOGY.BHD、河西工業㈱、東芝エレクトロニクス㈱マレーシア、㈱朝日工業社、㈱アルプス技研、㈱福島製作所、野村マイクロ・サイエンス㈱、東日本旅客鉄道㈱、㈱V S N、㈱ヤガイ、エルゴテック㈱、山形大学大学院(42)、東北大学大学院(8)、電気通信大学大学院、埼玉大学大学院、北陸先端科学技術大学大学院	
	電気電子 工学科	㈱システック、日特エンジニアリング㈱、東北電力㈱、デンソーテクノ㈱(2)、㈱三洋製作所、N E Cエンベデッドプロダクツ㈱、共和ハモテック㈱、㈱ユアテック、三菱プラントエンジニアリング㈱、日立電線㈱、日立金属㈱、日本システムウェア㈱、㈱かわでん、富士電子㈱、関口電気㈱、東北電化工業㈱、北海道パワーエンジニアリング㈱、太平工業㈱、㈱O K I ソフトウェア、エスビーエスホールディングス㈱、ニプロ㈱、㈱金属皮膜研究所(2)、㈱アイチコーポレーション、㈱アイメタルテクノロジー、㈱夢テクノロジー、東京計装㈱、高砂エンジニアリングサービス㈱、ジェイアール東日本ビルテック㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、旭化成アミダス㈱、㈱九電工、武蔵エンジニアリング㈱、S E C㈱、東根新電元㈱、㈱アルプス電気マレーシア、セレスティカ・ジャパン㈱、㈱トリニティアーツ、㈱東海理化、㈱V S N、㈱B S N アイネット、㈱白木機械設計、㈱カトム、㈱マテハンソフト、白井国際産業㈱、公務員(3)(警視庁電気職、東京消防庁、東京特別区)、山形大学大学院(35)、電気通信大学大学院、北陸先端科学技術大学大学院、高野山専修学院	
	情報科学科	㈱G C C、富士通ネットワークソリューションズ㈱、㈱サイバード、日本信号㈱、ヤフー㈱、キング通信工業㈱、岐阜新聞社、㈱小森コーポレーション、ユニアデックス㈱、㈱オーアイエスコム、サイバーコム㈱、㈱共栄システムズ、日本原燃分析㈱、N E Cエンベデッドプロダクツ㈱、㈱コヤマ、J R 東海情報システム㈱、N D ソフトウェア㈱(2)、㈱ソフテック(2)、キャノンイメージングシステムズ㈱、㈱ナプアシスト、日立情報通信エンジニアリング㈱、㈱N T T データ東北、㈱管理システム、㈱ミクロスソフトウェア、N E C ソフトウェア東北㈱、㈱Y C C 情報システム(2)、㈱日立情報制御ソリューションズ、ハイメカ㈱、㈱T T K、ソニー・イー・エム・シー・エス㈱、東杜シーテック㈱、㈱ハイテックシステム、東北電力㈱、テクノマインド㈱、日本証券テクノロジー㈱、ユニバーサルインフォメーションサービス㈱、山形パナソニック㈱、東北インフォメーションシステムズ㈱、米沢放電工業㈱、福島キャノン㈱、㈱シーテック、㈱アドバンストシステムテクノロジー、㈱インテックソリューションパワー、東京コンピュータサービス㈱、㈱メイズ、公務員(2)(陸上自衛隊、長井市役所)、山形大学大学院(21)、北陸先端科学技術大学大学院(3)、電気通信大学大学院、東北大学大学院	
B コ ー ス	応用生命 システム 工学科	岩手大学職員、山梨罐詰㈱、㈱青木商店、㈱Y C C 情報システム、㈱トンボ飲料、東北電力㈱、㈱荘内銀行、㈱オンザプラネット、㈱インフォファーム、㈱ビー・エム・エル、フクダ電子北関東販売㈱、㈱ユー・ドム、㈱ソルハ、東海旅客鉄道㈱、丸木医科器械㈱、パナソニックシステムソリューションズジャパン㈱、サンエツ金属㈱、公務員(東根市消防本部)、山形大学大学院(31)、東京工業大学大学院、読売理工医療福祉専門学校	
	物質化学 工学科	荒川産業㈱、アリオンテック㈱、㈱ニッカト、三栄化学㈱、㈱産業分析センター、森永乳業㈱盛岡工場、エンケイ㈱、中央設備エンジニアリング㈱、㈱徳寿工作所、日本パーオキサイド㈱、佐藤繊維㈱、㈱大昌電子、東北インテリジェント通信㈱、㈱ユニゾン、杉沢薬品㈱、㈱タカハタ電子、山形大学大学院(12)	
	機械システム 工学科	ミツミ電機㈱山形事業所、㈱ケーヒン、㈱オーテック、㈱彌満和製作所、理研精鋼㈱、㈱登米村田製作所、林精鋼㈱、㈱ナチ東北精工、㈱ブルボン、大野ゴム工業㈱、㈱アルトナー、山形カシオ㈱、㈱ニクニ、(有)エヌ・アール・ティー、三井造船プラントエンジニアリング㈱、公務員(海上自衛隊)、山形大学大学院(7)	
	電気電子 工学科	国際通信企画㈱、三光化成㈱、日本電技㈱、㈱ユアテック、能美防災㈱、古川電気工業㈱、石原産業㈱、三和工機㈱、日本発条㈱(N H K ニッパツ)、㈱ベガスベガス、日本シイエムケイ㈱、東北インテリジェント通信㈱、山形大学大学院	
ス	情報科学科	上陽工業㈱、米沢放電工業㈱、㈱共栄システムズ、㈱インフィニテック、有職者(1人)、山形大学大学院(2)	
	応用生命システム 工学科	セキスイハイム東北㈱、ダンロップタイヤ東北㈱、リスクモンスター㈱、サイバーコム㈱、山形大学大学院(3)	

2. 大学院理工学研究科博士前期課程(工学系)

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
機能高分子 工学専攻	N O K㈱、田島ルーフィング㈱、トヨタ自動車㈱(2)、㈱ブルボン、東海ゴム工業㈱、住友ゴム工業㈱(2)、日本シイエムケイ㈱、㈱アシックス、プラス・テック㈱、㈱巴川製紙所、ディー・ティー・ファインエレクトロニクス㈱、東レバッテリーセパレータフィルム㈱、出光興産㈱、フロンティア・ラボ㈱、矢崎化工㈱、アイシン精機㈱、三菱化学㈱、アイセロ化学㈱、アイジー工業㈱、東日本旅客鉄道㈱、㈱東京めいらく、㈱コニシ、㈱J S P、㈱矢崎総業、㈱フォーラムエイト、電気化学工業㈱、スガ試験機㈱、㈱出雲村田製作所、住江織物㈱、㈱細川洋行、山形大学大学院博士後期課程(2)	
有機デバイス 工学専攻	日本ゼオン㈱、㈱アイメタルテクノロジー、日本カーリット㈱、日本電産㈱、電気化学工業㈱、三菱レイヨン㈱、日本曹達㈱、ニプロ医工㈱、興国インテック㈱(2)、東レ㈱、大内振興化学㈱、ダイダナ㈱、電気化学工業㈱、日本カーバイド工業㈱、凸版印刷㈱、日立化成㈱、米沢浜理薬品工業㈱、㈱ボラテクノ、旭ファイバークラス㈱、出光ユニテック㈱、住友化学㈱、日油㈱、リケンテクノス㈱、㈱センマ化学、スズキ㈱、品川リフラクトリーズ㈱、山形大学大学院博士後期課程(2)	

物質化学工学専攻	出光興産㈱、㈱潤工社、富士重工業㈱、高級アルコール工業㈱、アイカ工業㈱、㈱パロマ、ケイテック㈱、山形カシオ㈱、吉野石膏㈱、新菱㈱、米沢放電工業㈱、日本化成㈱、大日本印刷㈱、菱機工業㈱、山九㈱、日本電技㈱、日立化成工業㈱、コスメティックスローランド㈱、鬼怒川ゴム工業㈱(2)、千代田化工建設㈱、㈱L I X I L、凸版印刷㈱、㈱東芝、日本コークス工業㈱、ハウス食品㈱、公務員(茨城県桜川市役所)、山形大学大学院博士後期課程
バイオ化学工学専攻	㈱バイオラックスメディカルデバイス、日本環境科学㈱、日立化成工業㈱、㈱染めQテクノロジー、共同薬品工業㈱、シロキ工業㈱、古川エス・デー・ケイ㈱、三甲㈱、日本メジフィジックス㈱、川研ファインケミカル㈱、ニプロ医工㈱、日本ノーベル㈱、富士フィルムファインケミカルズ㈱、多摩川精機㈱、光洋産業㈱、㈱たかしん興業、中外テクノス㈱、㈱島津アクセス、日本原燃㈱、㈱武蔵野香料化学研究所、㈱トッパンT D Kレーベル、スズキ㈱、日新製薬㈱、三菱樹脂㈱、横河レンタリース㈱、ニッケ㈱、山形大学大学院博士後期課程(2)
応用生命システム工学専攻	日本高周波㈱、K Y B㈱、アルプス電気㈱、㈱日立プラントテクノロジー、㈱日立アドバンストシステムズ、シスメックスC N A㈱、㈱シーエスアイ、㈱エルテックス、日立S C㈱、㈱アドバンテスト、ニチコン㈱、日立コンピュータ機器㈱、㈱ソシオ、日本モレックス㈱、マイクロストーン㈱、㈱ベネシス(一般社団法人日本血液製剤機構)、日本光電工業㈱、アドソル日進㈱、三菱電機インフォメーションシステムズ㈱、㈱ジャステック、トヨタ自動車㈱
情報科学専攻	㈱ケービン、㈱ケーイーシステムズ、㈱ソフトクリエイト、三菱電機情報ネットワーク㈱、㈱東海コミュニケーションズ、㈱OKIソフトウェア、㈱管理システム、三菱電機インフォメーションシステムズ㈱、キヤノンイメージングシステムズ㈱、デンソーテクノ㈱、ソニーエナジーデバイス㈱、㈱メイテック、㈱インテック、富士通エフ・アイ・ビー㈱、㈱アドバンテストシステムズ、スズキ㈱(2)、大興電子通信㈱、日立公共システムサービス㈱、㈱ハンガアウト、東日本旅客鉄道㈱、㈱富士通ソフトウェアテクノロジー、NTTコミュニケーションズ㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、㈱DTS、日本プロセス㈱、東北リコー㈱、㈱モバイルテクノ、NECパーソナルコンピュータ㈱、ヒロセ電機㈱
電気電子工学専攻	㈱アドバンテスト(2)、東北電力㈱(2)、㈱日立アドバンストデジタル(2)、㈱富士通総研、富士機工㈱、日本電産コバル電子㈱、N E Cソフト㈱、新電元工業㈱、㈱ケーイーシー、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構、双葉電子工業㈱、日本電設工業㈱、本田技研工業㈱、北芝電機㈱、日本ケミコン㈱、デュボン㈱、東日本旅客鉄道㈱、東京地下鉄㈱、東京エレクトロン宮城㈱、ニクニ㈱、東日本電機エンジニアリング㈱、㈱ネクスコエンジニアリング東北、㈱共和電業、富士重工業㈱、富士テクノサービス㈱、金子製作所㈱、NECエンベデッドプロダクツ㈱、㈱丹羽鉄工所、㈱タンガロイ、東北精機工業㈱、アルプス電気㈱、コンピュータロン㈱、山形大学大学院博士後期課程
機械システム工学専攻	日本モレックス㈱、Y K K A P㈱、日本発条㈱、㈱アイチコーポレーション、日本製紙㈱、N O K㈱(2)、岡部㈱、山形カシオ㈱、東北精機工業㈱、N E Cエンベデッドプロダクツ㈱、三和工機㈱、新菱冷熱工業㈱、総合警備保障㈱、㈱加藤製作所、㈱モビテック、T H K㈱、㈱タンガロイ(2)、㈱パラオテックスメディカルデバイス、ミツミ電機㈱、サクサ㈱、三菱電機エンジニアリング㈱(2)、富士重工業㈱(2)、王子製紙㈱、会津オリンパス㈱、河西工業㈱、東北バイオニア㈱、古河機械金属㈱(2)、㈱日立アドバンストデジタル、山洋電気㈱、㈱ケービン、東亜建設工業㈱、日立工機㈱、日立金属㈱、㈱東芝、ジヤトコ㈱、日本精機㈱、高砂熱学工業㈱、東海旅客鉄道㈱、アンリツ産機システム㈱、㈱シグマ、㈱湯原製作所、不二工機㈱、㈱ニフコ、日東紡績㈱、㈱彌満和製作所、㈱ヨロズ、㈱シンニッタン、㈱トッパンT D Kレーベル、㈱西島製作所、有職者(1人)、山形大学大学院博士後期課程(2)、日本電子専門学校
ものづくり技術経営専攻	東邦銀行㈱、山形食品㈱、有職者(8人)

3. 大学院理工学研究科博士後期課程（工学系）

専 攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料工学専攻	東洋インキC Sホールディングス㈱、有職者(1人)	
物質生産工学専攻	(未定)	
バイオ工学専攻	(未定)	
電子情報工学専攻	山形大学工学部技術職員、有職者(1人)	
機械システム工学専攻	(未定)	
ものづくり技術経営学専攻	有職者(1人)	

平成23年度 卒業・修了者の就職状況

学科・専攻等 事項		工学部Aコース							工学部Bコース							大学院理工学研究科博士前期課程										合 計
		機能高分子工学科	物質化学工学科	機械システム工学科	電気電子工学科	情報科学科	応用生命システム工学科	計	物質化学工学科	機械システム工学科	電気電子工学科	情報科学科	応用生命システム工学科	計	機能高分子工学専攻	物質化学工学専攻	機械システム工学専攻	電気電子工学専攻	情報科学専攻	応用生命システム工学専攻	バイオ化学工学専攻	生体センシング機能工学専攻	ものづくり技術経営学専攻	有機デバイス工学専攻	計	
概 況	卒業・修了者数	(13)123	(36)131	(4)114	(4)98	(6)81	(12)62	(75)609	(3)27	(0)23	(0)17	(0)6	(0)7	(3)80	(1)38	(9)45	(3)56	(2)43	(0)29	(4)25	(12)44	(0)1	(1)12	(0)26	(32)319	(110)1008
	就職希望者数	(5)39	(16)59	(3)60	(3)50	(4)46	(6)23	(37)277	(3)16	(0)17	(0)12	(0)3	(0)7	(3)55	(1)33	(9)42	(3)55	(2)42	(0)29	(4)21	(10)40	(0)0	(0)11	(29)23	(69)296	
	自営希望者数	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	
	進学希望者数	(7)80	(19)66	(0)47	(0)46	(1)28	(4)34	(31)301	(0)10	(0)6	(0)3	(0)2	(0)0	(0)21	(0)4	(0)0	(0)0	(0)0	(0)0	(0)2	(0)4	(0)0	(0)0	(0)3	(2)13	(33)335
	その他	(1)4	(1)6	(1)7	(1)2	(1)7	(2)5	(7)31	(0)1	(0)0	(0)2	(0)1	(0)0	(0)4	(0)1	(0)3	(0)1	(0)1	(0)0	(0)2	(0)0	(0)1	(0)1	(0)0	(1)10	(8)45
況	就職者数	(3)36	(16)58	(3)60	(3)44	(4)40	(5)22	(34)260	(3)16	(0)15	(0)12	(0)3	(0)5	(3)51	(1)32	(9)42	(3)54	(2)40	(0)28	(4)19	(10)40	(0)0	(0)11	(0)23	(29)289	(66)600
	未就職者数	(2)3	(0)1	(0)0	(0)6	(0)6	(1)1	(3)17	(0)0	(0)2	(0)0	(0)0	(0)2	(0)4	(0)1	(0)0	(0)1	(0)2	(0)1	(0)2	(0)0	(0)0	(0)0	(0)7	(3)28	
	就職率(%)	92.3	98.3	100.0	88.0	87.0	95.7	93.9	100.0	88.2	100.0	100.0	71.4	92.7	97.0	100.0	98.2	95.2	96.6	90.5	100.0	0.0	100.0	100.0	97.6	95.5

[注] () 内の数字は女子を示し内数である。

みんなで創る吾妻祭

第18回
吾妻祭実行委員長

鈴木 盛也

(応用生命システム工学科3年)

私たち第18回吾妻祭実行委員会は、前回に負けないようなよりよい学園祭を開催するため、10月まで活動してきました。

4月・5月には委員の勧誘をしました。今年もたくさんの委員が新しく実行委員会に入ってくれました。

そして、夏休み前から本格的に吾妻祭の準備が始まりました。夏休みには毎日学校に集まり、作業しました。やることが多く、委員はみんな大変な思いをしたと思いますが、仲間と一緒に一つの目標のために頑張ることの楽しさも実感できたのではないかと思います。

吾妻祭は、10月6日に米沢女子短期大学、7日・8日に山形大学工学部キャンパスで開催しました。今年は、新企画もいくつか企画されました。たとえば、東北六県の郷土料理・名物を味わうことができる食べ歩き企画や、民謡やダンスをしている米沢の団体を招いてその踊りを披露してもらう、新設北ステージ企画などを新企画として行いました。また、毎年行っている人気企画、お化け屋敷やアーティストライブなども行いました。

今年は、工学部では校舎の建て替えなどの工事が行われており、例年よりも屋台を設置できるスペースなどが限られてしまいましたが、他サークルの皆様、学校関係者の皆様のご協力もあり、無事吾妻祭を終えることができました。また、学園祭の主役であるお客様にもたくさんいらっやっていたいただきました。

これからも、吾妻祭実行委員会はより一層みんなが楽しめる学園祭を作っていくので、来年、またその先の吾妻祭も、どうかよろしくをお願いします。

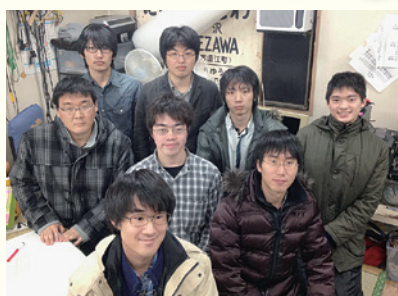
(平成24年12月記)



サークル紹介

SN7YAB 無線研究会 部長 千葉 琢磨

(機械システム工学科3年)



皆様、こんにちは。こちらは、山形大学無線研究会、通称「JA7YAB」です。「JA7YAB」は呼出符号と呼ばれ無線で交信する際に名乗る「名前」の事です。

創立50周年以上を誇る私達無線研究会では、多くの部員がアマチュア無線資格を取得しており、FM機、HF機を使用して県内外の様々な無線局と無線機を使い交信し交流を深めています。無線研究会は、無線機を使った交信活動を主としていますが、活動内容は人それぞれで無線機により交信活動に勤しむ人、Linuxを使用してサーバー構築を試みる人もいれば、自作パソコンなどを行う人もいて千差万別です。各学科の事情などを考え、活動日時は、人それぞれで活動曜日が決まっているという縛はありませんが、それゆえに個人に「目標意識」が求められます。

大規模なアンテナ工事などは部員全員が一丸となって作業に専念します。また、山形大学無線研究会は小白川キャンパス-米沢キャンパスに無料往復バスを走らせる学生団体「CAMBUSプロジェクト」の支援サークルでもあります。

サークル活動方針として、去年までは、アマチュア無線機を使用し交信する事を目標としていましたが、今年からはFM機(ハンディ機)などを用いて「防災訓練」を行いたいと考えています。また、自作無線機などの電子工作を今後行っていきたいと考えています。

近年、携帯電話やインターネットの普及に伴い、アマチュア無線の需要も減少していきましたが、アマチュア無線には言葉では言い表す事が出来ない魅力があります。アマチュア無線を始めると無線機を取り扱う事が出来るようになるばかりではなく、さらに新しい工学分野に興味を持つことになるでしょう。興味がある方は、ぜひ見学にいらして下さい。